

RI Japan 2021

5月17日月曜日ー21日金曜日

アジェンダ

時刻記載は全て日本時間。

(日英に差異がある場合は英語版を正とします。)

<p>17日 月曜日</p>	<p>15:00-15:15</p>	<p>RI・リードスポンサー開会挨拶: 長島巖、三菱UFJ信託銀行株式会社 取締役社長 兼 株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ 取締役 代表執行役副会長 Mark Steinberg, Chief Executive Officer, First Sentier</p>
	<p>15:30-16:30</p>	<p>パネル1: 機関投資家にとってESGは必須ビジネス要件になったのか? ESG投資が日本の年金基金運用でも広がりを見せている。2020年2月に改訂、4月に発効した積立金運用基本方針は、GPIFをはじめとした全ての公的年金基金に、ESG要素を検討し対応することを要請しており、企業年金もその動きには注目を寄せている。しかしながら、何をすれば「ESGをやっている」ことになるのか、疑問が拭えていないのも現状だ。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 検討: 日本の機関投資家は長期かつサステナブルなリターンについて、また戦略的な投資判断やリスク判断におけるESG情報の有用性をどう考えているのか? 検討対象になっていないのであれば、なぜか? - インテグレーション: 資産クラス、運用機関選定、資産配分、銘柄選定や運用比率の決定などに、ESG情報はどう組み込まれているのか? - スチュワードシップ: 投資一任契約下にあるアセットオーナーにとって、「スチュワードシップの遂行」とはどういうことなのか? 社内ガバナンス、議決権行使やエンゲージメントの遂行など、スチュワードシップの観点から、運用機関はどの様に評価、選定され、モニターされるべきなのか? - インパクト: 投資インパクトをどの様に考えるべきか? インパクトとは何か? 全てのESG投資はSDGsへの貢献を意図して、<u>ポジティブインパクト</u>をもたらすべきなのか? <p>プレゼンテーション: Anthony Eames, Director of Responsible Investment Strategy, Calvert</p> <p>スピーカー: 菅野暁、アセットマネジメントOne 代表取締役社長 池田賢志、金融庁 チーフサステナブルファイナンスオフィサー Faith Ward, Chief Responsible Investment Officer, Brunel Pension Partnership</p> <p>モデレーター: Hugh Wheelan, Co-founder and Joint Managing Director, Responsible Investor</p>
	<p>16:45-17:40</p>	<p>テーマ別探求1: インパクトファイナンスを理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> - インパクト投資とESG投資の違いは何か? なぜポジティブなインパクトを与える明確な意図があることが重要なのか? インパクトを考える視点は実際の投資行動にどう影響するのか? - インパクト投資家が受け入れるリターンの最低ラインはどこか? 受託者責任の疑問にどう応えるか? - 投資家はインパクトの特定、モニタリングや評価にどう関わるのか? アセットクラスによって違いはあるのか? <p>スピーカー: Priscilla Boiardi, Policy Analyst – Private Finance for Sustainable Development, Financing for Sustainable Development, Development Co-operation Directorate, OECD 今井 亮介、環境省 大臣官房環境経済課 環境金融推進室 室長補佐 稲葉章代、三井住友トラスト・ホールディングス サステナビリティ推進部長 Michael Salvatico, Head of Asia Pacific ESG Business Development, S&P Global Sustainable 1</p> <p>モデレーター: 堀江隆一、CSRデザイン環境投資顧問 代表取締役社長</p>
	<p>17:45-18:45</p>	<p>イブニングセッション: 生物多様性への投資家アクションを掘り起こす</p>

		<p>生物多様性はこの数年で、金融アジェンダの上位に急速に上がってきたトピックだ。官民の団体が、有効なデータや情報のフレームワークづくりに取り組んでいる。本録画セッションでは、生物多様性の損失に対する投資家の関心と、投資行動に組み込むにあたっての課題を俯瞰する。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 投資家は生物多様性損失に対処するにあたって、どれほど備えができているのか？ - 気候変動との類似性と違い: 生物多様性への適切な対処を考えるにあたり、どこまで気候変動対策の例に頼ることができるのか？ - 生物多様性課題を分析し、投資計画に組み込むためにどのようなステップを取るべきか？ - 自然資本や野生動植物保護に寄与する投資行動を強化するには、何が必要なのか？ - TNFDのようなイニシアティブは、どの様に発展を促しているのか？ <p>スピーカー: Charlotte Kaiser, Managing Director, NatureVest, The Nature Conservancy Marisa Drew, Chief Sustainability Officer & Global Head Sustainability Strategy, Advisory and Finance, Credit Suisse Marte Borhaug, Global Head of Sustainable Outcomes, Aviva Investors</p> <p>モデレーター: Elza Holmstedt Pell, Deputy Editor, Responsible Investor</p> <p>*本パネルはRIウェビナー“How can investors take action on biodiversity?”の同時通訳付き再放送です。質疑応答の受け付けはございません。</p>
18日 火曜日	15:00-15:15	基調講演1: 佐藤啓、経済産業大臣政務官
	15:30-16:30	<p>パネル2: 日本や世界はネットゼロ目標をどう達成するのか？投資家への含意と現実的なアクション</p> <p>125以上の国、地域がネットゼロ達成への意欲を表明しており、日本の参入も記憶に新しい。しかしそのうち具体的な道筋を示しているものはわずかだ。投資家は、今まさに進みつつある温暖化の影響に対処しつつ、産業のシフトに貢献することが求められている。これらは投資家にとってどういう意味をもつのか？</p> <ul style="list-style-type: none"> - 現行の政策の方向性は、ネットゼロへの移行が、経済や企業にどんな影響を与えるかを示しているか？ - ネットゼロ目標は投資家にとって、投資機会の拡大を意味するのか、または資産の損失を想定させるものなのか？ - 経済産業省の発表したクライメート・イノベーション・ファイナンス戦略2020ではグリーンイノベーションや移行に向けたファイナンスによって、敗者を出さない方向性が示されている。これらはどれだけ現実的なのか？ - 投資の潜在的なリスクリターンを理解するのに、カーボンプライシングはどれほど有効か？ <p>スピーカー: Chris Newton, Executive Director, Responsible Investment, IFM Investors 梶川文博、経済産業省 産業技術環境局 環境経済室長 アナスタシア・ミロビドワ、マネージャー、サステナビリティ・センター・オブ・エクセレンス PwCあらた有限責任監査法人、PwC Japanグループ Edward Baker, Head of Climate Policy, PRI</p> <p>モデレーター: 黒崎美穂、ブルームバーグNEF 東京オフィス 日本・韓国市場分析部門長</p>
	16:45-17:30	<p>テーマ別探求2: 移動・交通、ユーティリティセクターのトランジション: EV、再生可能エネルギー、インフラ整備</p> <ul style="list-style-type: none"> - 世界中でネットゼロの動きが進む中、自動車、交通および公共ユーティリティセクターにとっての見通しは？ - ESG評価は、産業やテクノロジーの移行に対する企業の耐性を反映しているか？ - ネットゼロ目標下で座礁する化石燃料資産のポテンシャルとは？ - 長期的に見て、原子力は再生可能エネルギーより望ましいのか？

		<p>スピーカー:</p> <p>Nick Langley, Managing Director, Portfolio Manager, ClearBridge Chris Newton, Executive Director, Responsible Investment, IFM Investors Rebecca Mikula-Wright, Executive Director, AIGCC</p> <p>モデレーター:</p> <p>Elza Holmstedt Pell, Deputy Editor, Responsible Investor</p>
	17:45-18:30	<p>イブニングセッション: ポートフォリオ上の気候リスクを特定し、対処する</p> <ul style="list-style-type: none"> - 気候変動を意識している投資家は、どう物理リスクや移行リスクについて収集したデータを、投資戦略につなげているのか? - TCFD提言に沿ったレポートは、企業の気候リスクについて意味ある透明性を提供しているのか? 得られるデータは目的に資しているのか? - マクロレベルのシナリオ分析やストレステストは、気候変動の経済的インパクトについて、投資家にどんな情報を与えるのか? - 様々なシナリオ分析、リスクアセスメントのツールによって、ポートフォリオの温度を測れるようになった。熱を下げるための次のステップはどうか? <p>スピーカー:</p> <p>Dimitrios Papanastasiou, Head of Risk & Finance Solutions, Moody's Analytics Craig Mackenzie, Head of Strategic Asset Allocation and Climate Fund Manager, Aberdeen Standard Investments 内誠一郎、インベスコ・アセット・マネジメント 投資戦略部 部長 セルフインデックス・ESG 事業推進担当</p> <p>モデレーター:</p> <p>Daniel Brooksbank, Head of Strategic Content, Responsible Investor</p>
19日 水曜日	14:45-15:25	<p>Silver Linings: 高齢世代ケアのサステナビリティ課題</p> <p>サステナブル投資を世界で強く支持しているのは、受給者の退職後の収入を支える目的でつくられた年金基金である。しかし、日本やヨーロッパを始め各国の老齡ケアセクターは、過大なプレッシャーに晒されており、その実態はサステナブルとも手頃ともかけ離れている。本セッションでは、Responsible Investorが協力するコンペティション、「Silver Linings: 受給者に真に資するために」を概観し、年金基金の投資対象としてリターンを確保しつつ、高齢世代にサステナブルなケアを提供する、ビジネスのあり方を考えていく。</p> <p>コンペ企画のエントリーを受付中。詳細はSilver Liningsウェブサイト参照。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 責任投資と高齢世代のケアがどうつながるのか? - Silver Liningsコンペの企画意図と、think > do イベントの意味 - "ブレインウェーブ"と"ビジネスプラン"。エントリー方法、賞金など - Silver Liningsビジネスプランがどう投資計画につながっていくのか? <p>スピーカー:</p> <p>Sally Bridgeland, FIA (trustee, non-executive director and adviser) Dr Rachel Melsom, MBBS, BSc. Director, Medical Matrix Consulting, Practicing Physician Hugh Wheelan: Co-founder and Joint Managing Director, Responsible Investor</p>
	15:30-16:30	<p>パネル3: ガバナンスと企業価値創造の次のステップ</p> <p>日本版コーポレートガバナンスコードは2021年3月に2回目の改訂を迎える。また、2022年春に予定されている東京証券取引所の市場再編には、コードの適用も紐づけされている。2014年から開始したコーポレートガバナンス改革は、徐々に実を結び資本効率の向上につながりつつある。投資家や金融機関がESG課題の相互関連性に注目する中で、今後の価値創造の方向性はどのようなものになるのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 直近のコーポレートガバナンスコードの改訂は、投資家にどんな改善をもたらすのか? - 企業と投資家の価値創造コラボレーションは、変わりつつある社会・経済環境に対する耐性をどう強化していけるのか? - アクティブオーナーシップ実施に対する、アセットオーナーのモニタリングの役割とは? <p>スピーカー:</p> <p>Marco Becht, Professor of Finance and the Goldschmidt Professor of Corporate Governance, the Solvay Brussels School for Economics and Management at Université</p>

		<p>libre de Bruxelles, and Executive Director, ECGI 正木義久、日本経済団体連合会 ソーシャル・コミュニケーション本部長 三橋和之、三菱UFJ信託銀行 資産運用部副部長兼フェロー George Dallas, Policy Director, International Corporate Governance Network</p> <p>モデレーター： 寺山恵、日興リサーチセンター 社会システム研究所長 主任研究員</p>
	16:45-17:30	<p>テーマ別探求3: サプライチェーンにおけるサステナビリティ課題</p> <ul style="list-style-type: none"> - 企業のサプライチェーンについての透明性を担保するために、国際的な規制環境はどう変化しているのか？ - なぜ多くの投資家が、生物多様性の損失に関心を寄せ始めているのか？ - サプライチェーンを通じた、強固な人権デューデリジェンスによる価値創造というビジネスケースは存在するのか？投資家にとってのコストとは？ - 複雑かつ潜在的なリスクも伴う、企業のサプライチェーンについて情報を得るために、ステークホルダーエンゲージメントはどう役に立つのか？ <p>スピーカー： Nina Roth, Director, Responsible Investment BMO Global Asset Management Magnus Billing, Chief Executive Officer, Alecta Kate Turner, Responsible Investment Specialist, First Sentier Investors</p> <p>モデレーター： 佐藤暁子、ビジネスと人権リソースセンター 日本リサーチャー／代表</p>
20日 木曜日	15:00-15:15	<p>基調インタビュー2: スー木下, 駐日英国首席公使 インタビュワー: Daniel Brooksbank, Head of Strategic Content, Responsible Investor</p>
	15:30-16:30	<p>パネル4: デジタルトランスフォーメーションとESG</p> <p>菅政権の主要政策の1つは、公的機関のデジタル化に着手し、民間セクターでの更なる充実を牽引することである。デジタルトランスフォーメーションは、経団連のSociety 5.0構想でも社会、環境課題のソリューションとして中核に据えられている。このデジタル化の流れは投資家にとってどんな意味を持つのか？</p> <ul style="list-style-type: none"> - ESG分析には、どの様な新興技術が使われているのか？データのバイアスや透明性、言語などに由来する潜在的な課題をどう乗り越えるのか？ - 現行のサステナビリティに関わるレポート枠組みは、デジタル化の流れに即しているのか？データユーザーにとって、この変化は何を意味するのか？ - 結果として、テクノロジー業界に富と権力が更に集中していくのか？ビッグデータの使用、社会的影響力、税制回避など、ガバナンスとソーシャルの側面ではどう評価されているのか？ <p>スピーカー： 工藤まゆみ、Schroders ESG推進グループ グループリーダー Marianne Haahr, Executive Director, Green Digital Finance Alliance 三井 千絵、野村総合研究所 ホールセールプラットフォーム企画部 上級研究員 Mattias Levin, Deputy Head of Digital Finance Unit, Directorate-General for Financial Stability, Financial Services and Capital Markets Union, European Commission</p> <p>モデレーター： 岸上有沙、EnCycleS 独立コンサルタント</p>
	16:45-17:30	<p>テーマ別探求4: 信用あるESG評価と適切なベンチマークの開発</p> <ul style="list-style-type: none"> - 財務上意味のある、リアルタイムのESGデータとはどんなものか？どう実現できるのか？ - 国際的な開示枠組みをめぐる展開は、どの様に投資判断に有効なESGデータの開発につながるのか？「ダブル・マテリアリティ」の考え方はどう取り扱われるのか？ - インデックスプロバイダや評価機関とのエンゲージメントは、GPIFの主要イニシアティブのひとつである。結果どれだけ、ESGインデックスの構成や評価手法についての透明性を、投資家に与えることにつながっているのか？ <p>スピーカー： Richard Barker, Professor of Accounting and Associate Dean of Faculty, Saïd Business School, University of Oxford</p>

		<p>Jenny Nordby, Head of Partnerships & Third-Party Distribution, RepRisk 牧野義之、S&Pダウ・ジョーンズ・インデックス マネジング・ディレクター 日本オフィス統括責任者</p> <p>モデレーター: 牛島慶一、EY Japan 気候変動／サステナビリティサービス (CCaSS)</p>
21日 金曜日	15:00-15:15	<p>基調インタビュー3: Sue Reid, Finance Team Co-Lead, COP 26 High Level Champions インタビュワー: Daniel Brooksbank, Head of Strategic Content, Responsible Investor</p>
	15:30-16:30	<p>パネル5:トランジションを進める債券 グリーン、ソーシャルそしてサステナブルリンク・ボンドへの需要は着実に高まっている。これらの事業債に加えて、KPIIに紐づけされた債券、ローンなども登場し、サステナビリティ関連資金により企業がアクセスしやすくなっている。債券市場が、カーボン・ニュートラルかつ、持続可能な経済への移行を触媒する体制が整ったのだろうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> - 現況の超低金利環境で、サステナブル債券商品は、投資家にとってどれだけ魅力があるのか？さらに資金を呼び込むには何が必要なのか？ - KPIIに紐づけたグリーン債券、ローンは、サステナブルファイナンスの様相をどう変えるのか？ - 世界の投資家はなぜ、またどの様に、債券エンゲージメントに踏み切っているのか？ <p>スピーカー: 多湖 理、FTSE Russell 日本代表 Aldo Romani, Head of Sustainability Funding, European Investment Bank Carmen Nuzzo, Head of Fixed Income, PRI 水口剛、高崎経済大学 学長</p> <p>モデレーター: 林礼子、国際資本市場協会 (ICMA) 理事会理事、BofA 証券 取締役副社長</p>
	16:45-17:30	<p>テーマ別探求5: Responsible Company: ESGのベストプラクティスと効果的なコミュニケーション 本セッションでは、企業の戦略、内部手続き、レポート機能などのベストプラクティスを、ESGの道しるべとなる、5つのマイルストーンに照らして検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 市場、セクター、自社のサステナビリティ理解の現状把握 - マテリアリティ分析 - 目標・ゴール設定 - 実施ロードマップの作成 - レポート戦略の考案 <p>スピーカー: 柳良平、エーザイ 専務執行役 CFO(最高財務責任者)早稲田大学大学院 会計研究科 客員教授 Teni Ekundare, Senior Manager, Investor Outreach, FAIRR Initiative 鳥居夏帆、株式会社日本取引所グループ サステナビリティ推進部 調査役</p> <p>モデレーター: Helen Wood-Gush, Senior ESG Consultant, Responsible Investor</p>

[RI Japan 2021 無料参加登録はこちらから](#)